

| | |
|--|--|
| <p>学校教育ビジョン 「確かな学力と豊かでたくましい心と体」を持つ片山津小の児童を育成する。</p> <p>○確かな学力 ○心と体 ○からだ</p> | <p>・基礎基本の定着 ・自分の思いや考えを表現できる子 ・繰り返す力の向上(集団思考力) ・コミュニケーション力(人間関係力)の向上 ・自学(家庭学習)の定着</p> <p>・他を思いやる心(いじめのない) ・強い意志(不登校のない) ・ふるさと加賀、石川、日本を愛する心(ふるさと学習) ・みんなとともに(全校活動・交流活動)</p> <p>・体力の向上 ・保健、衛生意識の向上(規則正しい生活)</p> |
|--|--|

| 評価の項目 | 今年度の重点目標 | 具体的取組 | 主担当 | 現 状 | 評価の観点 | 実現状況の達成度判断基準 | 判定基準 | 備考 |
|-------------|---|---|-------------------------|---|---|--|-------------------------------------|---|
| ①教育課程・学習指導 | 算数科を通して、基礎力、さらに表現する力をつけられるよう、指導法の工夫、改善を図る。 | 朝自習や「ぐんぐんタイム」、家庭学習を利用して、学年相当の基礎学力を身につける。 | 研究主任 教務主任 | ぐんぐんタイムによる計算練習によって、基礎・基本の定着を図ることができた。 | 【成果指標】 学年相当の基礎学力が身につけている。 | 学年相当の知識・理解・技能の内容が A 85%以上できるできる子が80%以上である B " 70%以上である C " 60%以上である D " 60%未満である | 判定基準がC、Dの場合は、ぐんぐんタイムの在り方や指導法の改善を図る。 | 学期末に、教員の持っているデータで調査する。 |
| | | 家庭学習の習慣がつくように、家庭学習の手引を配布し「ぐんぐん学習」を継続させる。 | 研究主任 教務主任 | 全校では75.8%であった。さらに、家庭学習が続けられるように宿題や家庭との連携を大切にしていける必要がある。 | 【成果指標】 家庭学習の習慣が身につけている。 | 家庭学習を6ヶ月続けられる児童の割合が A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である | 判定基準がC、Dの場合は、個別に指導するなど、個に対する指導を増やす。 | 学期末毎に、児童の持っている「ぐんぐん学習カード」で調べる。 |
| | 色々な読書活動を通して、本に親しませることで読書の習慣化を図る。 | ・わくわく文庫を活用したりして学級文庫の充実を図る。 ・読み聞かせ活動を継続実施する。 ・毎月23日を家庭読書の日として推奨していく。 | 図書館司書 教諭 | 読み聞かせ活動により、読書への興味・関心は高くなってきている。 | 【成果指標】 進んで読書をする習慣が身につけている。 | 進んで読書する児童の割合が A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である | C、Dの場合は、指導方法を検討する。 | 学期ごとの生活アンケートで調査する。 |
| ②生徒指導 | 学級づくりを土台に、温かみのある人間関係をつくる。自主性を尊重しながら、基本的な生活態度を育成する。 | ・学級づくりに際し、3つの共通目標を設定し実践する。 ・基本的な生活態度育成のための7つの目標「にじをかけよう」を設定し、毎月の生活目標に組み込みながら具現化を図っていく。児童会とも連携する。 | 生徒指導主事 | 全校集会は整然とできるようにできてきている。特定この以外は遅刻は少なくなってきた。あいさつをしようという意識は高まってきている。乱暴な行為は減ってきているが、言葉づかいはまだ改善されていない。授業中でも落ち着いて学習できるようにした。 | 【努力指標】 廊下を走る子に注意したり、挨拶の励行を促すことにより、日々実践できる児童の育成に努めている。また、言葉を正しくするようにしている。 | 月末の生徒指導交流会での点検で基本的な生活習慣に関する指導「にじをかけよう」についての月目標が A 達成された B ほぼ達成された C あまり達成されていない D まったく達成されていない | C、Dの場合は、生徒指導全体会で取り組み体制を再検討する。 | 月末に教員の意見を出し合い、実践の方向を検討する。 |
| ③進路指導・生き方指導 | 発達段階に即して、自分の興味・関心事を自覚し、物事に一生懸命取り組み、粘り強くやり遂げる態度や責任感を育てる。 | 学級での係活動、掃除、高学年の委員会活動等に責任を持って取り組ませるとともに、やり遂げる喜びを味わわせる。 | 担任 児童会担当 清掃担当 | 多くの児童は、係活動や清掃活動などの奉仕的な活動に積極的に取り組むことができる。一部の根気がつかない児童がいるので、いろいろな活動を通してしっかりと活動できるように工夫していきたい。 | 【成果指標】 勤労の心を持ち、奉仕活動に意欲的に取り組んでいる。 【努力指標】 児童会を中心に、活動の場の工夫に努めている。 | 毎日の奉仕的な活動に対して A どの子も進んで活動に取り組んでいる B 多くの子が真面目に取り組んでいる C やや真面目に取り組まない子がいる D 真面目に取り組まない子が多い | C、Dの場合、個人的に指導するとともに、取り組みを再検討する。 | 学期末に教員を対象に調査する。 |
| ④安全管理 | 施設の安全管理の徹底とともに、緊急時に対処することができる能力を育成する。 | 避難訓練を年3回実施し(火災・地震・不審者)緊急時の対応についての意識の向上を図る。 | 教頭 生徒指導主事 学校安全委員会 | 予定通り3回避難訓練が実施でき、避難時間も昨年度より早くなった。また、1回は消防署員立ち会いの下で行うことができた。 | 【成果指標】 緊急時の対応マニュアル通りに、児童及び教職員が行動できる。 | 避難訓練での児童、教職員の行動が A ほとんど達成している B 80%以上達成している C 70%以上達成している D 達成度が70%未満である | C、Dの場合は、避難訓練の方法そのものを再検討する。 | 学期に1回、避難訓練を実施する。 |
| ⑤保健管理 | ・規則正しい生活の習慣化をめざす。 | ・すこやかカードを通して、規則正しい生活の実践に取り組む。 | 保健主事 養護教諭 | ・給食後の歯みがきを重点的に取り組み、歯みがきをする子が増えた。 ・学校保健委員会でも歯みがきについて発表し、意識が高まってきている。 | 【成果指標】 ・規則正しい生活を実践しようとする意識が育っている。 | ・すこやかカードを通して規則正しい生活を実践しようとする意識が A ほとんどの児童の意識が高まっている。 B おおむねの児童の意識が高まっている。 C あまり高まっていない。 D ほとんどの児童に高まりがみられなかった。 | ・C、Dの場合、個人的に指導するとともに、家庭に協力を呼びかける。 | ・すこやかカードを点検する。 |
| | ・積極的に体力向上に努める態度を養う。 | ・体育の授業に、持久力を高めるトレーニングとコーディネーショントレーニングを取り入れ運動環境を充実させる。 | 体育担当 | ・高学年の持久力が若干上回った。そのため、マラソン・なわとびと体力づくりを取り入れたので、2回目の体力テストは実施しなかった。 | ・運動環境をととのえ、体力づくりに取り組む児童が増え、体力が向上している。 | 4.5.6年男女それぞれにおいて、県平均を上回った児童が A すべて上回っている B 2/3上回っている C 1/3上回っている D すべて下回っている | ・Dの場合、指導法を再検討する。 | ・5月に児童を対象に新体力テストを実施する。また、柴山湯一周マラソンやなわとび、マラソンの強化月間を実施する。 |
| ⑥特別支援教育 | 一人一人のニーズに応じた支援を工夫し、学校全体で支援する体制を整える。 | 校内支援委員会、ケース会、全体会を通じ、全職員で支援していく。 | 特別支援コーディネーター | ・全体研修会で事例に対し理解を深め、支援体制を工夫することができた。 ・校内委員会の時間が取りにくく、十分な継続的な実態把握が不十分だった。 | 【努力目標】 ・学年ファイルの引き継ぎを確実にし、支援に生かしている。 ・研修会等を通じ、個々の特性や支援の共通理解に努めている。 | 左記の評価の観点が A できた B ほぼできた C あまりできなかった D できなかった | C、Dの場合、改善策を検討する。 | 2学期末に担当が自己調整する。 |
| ⑦組織運営 | 各分掌がそれぞれの役割を果たし、組織が一体となった活力ある学校運営をめざす。 | 組織的な学校運営実現のために、各分掌が互いの連携を密にする。 | 教務主任 各主任 | 各分掌分掌は仕事内容も適切に分担され、機能的に運営されている。各部、学年間の連携も円滑に行われている。 | 【努力指標】 各主任が中心となり、より組織的な学校運営の推進に努力している。 | それぞれの分掌がより組織的に A 十分機能している B おおむね機能している C あまり機能していない D 機能していない | C、Dの場合、校務分掌で取り組み体制を再検討する。 | 学期末に教員を対象に調査する。 |
| ⑧研修 | 全職員が、授業改善に積極的に取り組む。 | 教材研究や授業研究を通して、表現する力がつくよう、課題作り、教材開発などを行い、授業改善を目指す。 | 研究主任 | 昨年度は中学年研究会があり、職員全体で前向きに取り組むことができた。模擬授業や整理会のあり方なども引き続き取り組みたい。 | 【成果指標】 校内研修会が充実し、研修の効果が上がっている。 | 校内研修の成果が A 十分満足である B おおむね満足している C あまり満足とはいえない D 不満が多い | 判定基準がC、Dの場合、研修会の持ち方や内容を検討する。 | 学年末に教員を対象に調査する。 |
| ⑨保護者、地域との連携 | 学校公開の機会を積極的に取り入れ、開かれた学校づくりをめざす。幼保小、小中の連携を更に深める。 | ・毎月1回自由参観日を設け、学校の公開に努める。 ・学校の教育活動を「学校便り」等を通じ幅広く知らせる。 | 教頭 教務主任 | アンケート調査の結果から、8割の保護者が学校の様子がよくわかるかと答えており、9割の保護者が授業参観や学校行事に参加するようになると答えている。 | 【満足度指標】 学校の教育活動が保護者や地域に理解され、満足している。 | 保護者が学校の教育活動に対して A 十分満足している B おおむね満足している C あまり満足とはいえない D 不満が多い | C、Dの場合、改善策を検討する。 | 年2回、保護者を対象に、アンケートを実施する。 |
| ⑩教育環境整備 | 学習、生活環境の状況を常に把握し、改善に努める。 | 毎月、定期的に安全点検を実施し、不備な箇所は速やかに整備する。 | 教頭 安全点検担当 各担当 | 毎月の安全点検票をもとに、迅速に対応している。今年には特に雨漏りがひどく、教育委員会への報告が多かった。 | 【努力指標】 毎月の安全点検票等を参考にし、常に施設・設備の状況の把握に努めている。 | 施設・設備の点検・整備・修繕が A 十分できた B ほぼできた C あまりできなかった D 不十分だった | B、Cがある場合は、迅速に対応する。 | 毎月安全点検を実施する。 |